

一般社団法人コミュニティシネマセンター 2022年度(令和4年度)事業報告

1. 受託事業

[1] 映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ2022

(文化庁 令和4年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)

継続的に実施している人材育成事業。全国コミュニティシネマ会議、上映者育成のための講座・ワークショップ、ミニシアター・コミュニティシネマ連携企画、Fシネマ・プロジェクトという4つのプログラムを柱としている。これらのシンポジウムやワークショップ、講座等の事業を通して、地域の上映活動を担う人材を育成し、ネットワークの構築を進めた。

(1) 全国コミュニティシネマ会議2022

実施日：2022年11月18～19日 会場：岩手県公会堂(岩手県盛岡市)

参加者：会場参加=175人(出演者・スタッフ含) オンライン参加=83人 合計=258人

2022年度は、岩手県盛岡市の岩手県公会堂で2日間にわたり開催。2019年以来、3年ぶりに通常のかたちで実施することができた。合計258名が会議に参加、そのうち約100名が初めての参加者だった。

1日目の会議では、冒頭、東日本大震災から11年にわたる岩手県沿岸部を中心とした上映活動を振り返る映像を上映し、被災地で行われてきた上映会や、新たに生まれた上映活動を振り返った。「プレゼンテーション+ディスカッションⅠ「映画祭」の時代」では、30年以上続く映画祭や始まったばかりの映画祭など、国内外4つの映画祭を紹介。海外からもクリストフ・ポスティック氏(リュサス国際ドキュメンタリー映画祭(フランス))を迎えることができた。

「プレゼンテーション+ディスカッションⅡ「上映活動支援」制度を実現するために」では、コロナ禍における文化庁による特別支援事業「AFF」の活用事例・成果をふまえ、上映振興策の必要性や実現可能性について話し合った。「プレゼンテーションマラソン2022」では、岩手県内を中心に13団体の上映活動を紹介した。2日目は3つのテーマを設けて分科会を実施した。

プレゼンテーション&ディスカッション：「映画祭」の時代

志尾睦子[高崎映画祭]/高橋大[盛岡<映画の力>プロジェクト]/クリストフ・ポスティック[リュサス国際ドキュメンタリー映画祭]/宮崎しずか[ひろしまアニメーションシーズン]

司会：土田環[早稲田大学理工学部]/通訳：坂本安美[アンスティチュ・フランセ日本]

プレゼンテーション&ディスカッションⅡ：「上映活動支援」制度を実現するために

榎手由貴子[映画監督/action4cinema(日本版CNC設立を求める会)]/田井肇[シネマ5(大分)/コミュニティシネマセンター]/とちぎあきら[コミュニティシネマセンター理事/司会]/渡辺祐一[配給会社「東風」/現代アートハウス入門]/榎桁一則[みやこ映画生協]/黒岩美智子[ガーデンズシネマ/「夏休みの映画館」]

プレゼンテーションマラソン2022

平賀貴志[「映画の街盛岡」推進事業実行委員会]/下田昌克[<映画の力>プロジェクト]/吉田広宇[ラヂオもりおか音楽映画祭]/榎桁一則[みやこ映画生活協同組合]/八谷三和[シネマ・デ・アエルプロジェクト]/小田中卓也[シワキネマ]/富田圭[カシオペア映画祭/萬代館]/工藤美香[中央映画劇場]/藤田秀夫[フォーラム盛岡]/松本健樹[一関シネプラザ]/栗原エミル、松本トラヴィス[秋田アウトクロープ・シネマ]/許斐雅文[国際交流基金]/熊谷睦子[『金石ラーメン物語』]

分科会：本と映画がであう場所—図書館・まちの書店とコミュニティシネマ—

司会：小川直人[せんだいメディアテーク]/手塚美希[紫波町図書館主任司書]/竹中翔子[シネコヤ/藤沢市]/宮迫憲彦[CAVA BOOKS/京都市]

分科会：映画館における「こどもと映画プログラム」—若年層の観客を開拓する

岩崎ゆう子、小川菜侑[コミュニティシネマセンター]/村上朗子、戸村陽子[川崎市アートセンター]/梶原俊幸[横浜シネマ・ジャック&ベティ]/黒岩美智子[鹿児島ガーデンズシネマ]/志尾睦子[シネマテークたかさき]/土田環[早稲田大学理工学部]

分科会：「シネマ未満」シネマ以上—まちに創造される新たな上映空間。

有坂民夫 [シネマ・デ・アエルプロジェクト] / 佐々木友輔 [映像作家/「映画愛の現在」] / 武井みゆき [配給会社「ムヴィオラ」] / 東盛あいか [映画監督『ばちらぬん』] / 宮崎善文 [松本CINEMAセレクト]

(2) 上映者育成のための講座・ワークショップ

－映画館・上映者のための講座

実施日：2022年6月29日 実施会場：映画美学校（東京都渋谷区）

参加者：61人（内オンライン参加30人）

「日本版CNC設立を求める会（a4c）」の共同代表である諏訪敦彦監督に同会の活動の主旨・概要を聞いた。

－上映振興制度のあり方を考える講座：「上映活動支援」制度を実現するために

実施日：2022年11月18日 実施会場：岩手県公会堂（岩手県盛岡市）

全国コミュニティシネマ会議の「プレゼンテーション&ディスカッション」として実施。

－アートマネジメントワークショップ イン 東北「"シアター未満"・"シアター以上"－まちに創造される新たな上映空間。

実施日：2022年11月18日 実施会場：岩手県公会堂（岩手県盛岡市） 参加者：59人

全国コミュニティシネマ会議の分科会として実施。映画上映スペースの運営スタッフや、配給会社、映画監督、研究者といった様々な視点から、映画館がなくなったまちでどう創造的に上映事業を続けていくか、参加者とともに話し合った。

(3) ミニシアター・コミュニティシネマ連携企画の推進

－「こども（若年層）と映画」プログラム

「こどもと映画プログラム」では、こども（中高校生を含む）を対象とする上映会を定期的に行う映画館・コミュニティシネマの増加を促すため、以下の事業を行った。「夏休みの映画館」と連動した形で実施。

①「こどもと映画プログラム」ネットワークの構築

子ども向け（若年層）上映会をより魅力的なものにするための方法を考え、情報やノウハウを共有し、新しいプログラムをつくるためのワーキンググループをつくり、定期的にミーティングを行っている。

② 鑑賞ノート（ワークシート）の作成

2022年度は「夏休みの映画館」のために『ゼロ弾きのゴージュ』（高畑勲監督）、『タレントタイム－優しい歌』（ヤスミン・アフマド監督）、2作品の鑑賞ノート（ワークシート）を作成、全国各地の子ども向け上映会において配布することができた。

③ 子ども映画館（上映会）の実施

「夏休みの映画館」以外に、子ども（中高生を含む）を対象とした上映会は、全国7カ所で計12回実施した。各地の上映者とともに企画・運営を行い、上映会には合計1414名に参加してもらうことができた。

*自主事業[2]「子どもと映画プログラム」参照

－若手監督作品上映推進プロジェクト

実施期間：2022年4月～9月 実施会場：全国各地の映画館・上映団体10館で実施

若い監督や製作者によるインディペンデント映画の上映を盛り上げるため、監督や出演者等によるトークや舞台挨拶等のプログラムを企画、実施。出演者の旅費を負担した。

観客数計 587人

実施日・会場・内容：

・2022年4月16日 | みなみ会館(京都)、シネ・ヌーヴォ(大阪)、元町映画館(兵庫) | 『誰かの花』 | 奥田裕介(監督)、カトウシンスケ(主演)

・2022年4月17日 | シネマ尾道(広島) 『誰かの花』 奥田裕介(監督)、カトウシンスケ(主演)

・2022年6月18日 | シネマチュプキ 『まっばだか』 津田晴香(主演)

・2022年7月2日 | シネマスコーレ 『まっばだか』 津田晴香(主演)

・2022年7月17日 | 松本市民芸術館(シネマセレクト) 『旧グッゲンハイム邸裏長屋』 前田実香(監督)

- ・2022年7月23日 | 新潟シネウインド『彼女はひとり』中川奈月(監督)
- ・2022年8月7日 | 福山駅前シネマモード(広島)『PLAN75』磯村勇斗(俳優)
- ・2022年12月10日、11日 | シネコヤ(神奈川)『こころの通訳者たち』 難波創太、近藤尚子(出演)、平塚千穂子(プロデューサー)、山田礼於(監督)

ーミニシアター・ネットワーク事業の開拓

複数のミニシアターが連携して実施する企画として、2021年に続き「夏休みの映画館」を実施した。

■夏休みの映画館 [子ども(若年層)向け連携上映企画] 文化庁AFF事業

実施日: 2022年7月29日～8月5日

会場: シネマ・ジャック&ベティ(横浜)、シネマテークたかさき(高崎)、松本CINEMAセレクト、大阪シネ・ヌーヴォ、元町映画館(神戸)、Denkikan(熊本)、鹿児島ガーデンズシネマ

*自主事業[2](1)「夏休みの映画館」参照

(4) Fシネマ・プロジェクト

デジタル化が進行する中でも、映画のオリジナルの形態であるフィルムでの上映環境を保持しつづけるためのプロジェクト。R4年度は、ウェブサイト「Fシネマップ」を活用した情報提供・ネットワークづくり、Fシネマの魅力を広く伝える上映会を実施した。

ーFシネマのウェブサイト「Fシネマップ」の運営

フィルム上映に関する情報を提供するFシネマのポータルサイト「Fシネマップ」fcinemap.com、「アートハウス・プレス」arthousepress.jpの運営。

また、2023年度の企画として「日韓交流Fシネマ・プロジェクト」を検討した。

ーフィルム上映会の実践

実施期間: 2022年11月18日 実施会場: 岩手県公会堂(岩手県盛岡市)

映写技師の育成と、フィルム文化の魅力と重要性を伝えるため、全国コミュニティシネマ会議に合わせて岩手県ゆかりの2作品のフィルム上映会を開催した。

上映作品: 『息子』(1991年/監督: 山田洋次/121分) / 『ハゲタカ』(2009年/監督: 大友啓史/134分)

上映後、大友啓史監督トーク 聞き手: 工藤昌代

フィルム映写: 鈴木映画

[2] 「映画上映活動年鑑2022」の作成

(文化庁 令和4年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)

「映画上映活動年鑑2022」内容

I 映画館での上映

- (1) 概況
- (2) 公開本数・公開作品
- (3) 諸外国との比較[2021]
- (4) 都道府県別概況
- (5) 全国映画館リスト2022

II 公共上映

- (1) 公共の映画専門施設(シネマテーク)及び上映事業を行う美術館
- (2) 映画館以外で行われる上映活動一覧

III 特集1 | 映画祭の現在

新たな“映画祭の時代”

全国コミュニティシネマ会議採録

高崎映画祭によって育まれる高崎の「映画文化」/リュサス国際ドキュメンタリー映画祭/ひろしまアニメーションシーズン/〈映画の力〉プロジェクト
 全国映画祭リスト2022

IV 特集2 | 映画振興策の現在

- (1) 新たな映画上映振興策に向けて、前提として考えておきたいこと
- (2) 日本における映画政策の展開ー「これからの日本映画の振興について」以降の20年ー
- (3) 新しい映画上映振興策について
- (4) 全国コミュニティシネマ会議ディスカッション採録 | 「上映活動支援制度」を実現するために

V 資料

地方別上映施設地図/都道府県別上映施設一覧

VI 上映に関わる用語集

2. 自主事業

[1] 「SAVE the CINEMA!」事業

(1) コミュニティシネマへの公的な支援システムの実現に向けた活動

コミュニティシネマ（ミニシアター、シネマテーク、自主上映等）の活動に対する支援を実現するための、映画振興を担う組織や支援のための組織、法律、制度等の確立を目指し、文化庁や他団体と連携を図り、必要な活動を行った。また、前年度に続き、関連の講座を実施した。

*受託事業1(2)参照

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行った。

(2) コミュニティシネマの活動情報ポータルサイト「アートハウス・プレス」の運営

日々全国各地で展開される多様な上映関連イベントや、映画祭、特集上映など特別な映画上映の情報を、網羅的に紹介するサイト「Arthouse Press（アートハウス・プレス）芸術電影館通信」を運営。

2022年度のArticles & Reports :

2022年4月5日

『フランスにおける映画振興に対する助成システム等に関する実態調査 報告書』のためのささやかなガイド

2022年5月24日 連続講座「現代アートハウス入門 ネオクラシックをめぐる七夜 Vol.2」(1)

2022年5月24日 連続講座「現代アートハウス入門 ネオクラシックをめぐる七夜 Vol.2」(2)

2022年5月31日 連続講座「現代アートハウス入門 ネオクラシックをめぐる七夜 Vol.2」(3)

2022年5月31日 連続講座「現代アートハウス入門 ネオクラシックをめぐる七夜 Vol.2」(4)

2022年6月8日 連続講座「現代アートハウス入門 ネオクラシックをめぐる七夜 Vol.2」(5)

2022年6月8日 連続講座「現代アートハウス入門 ネオクラシックをめぐる七夜 Vol.2」(6)

2022年6月16日 連続講座「現代アートハウス入門 ネオクラシックをめぐる七夜 Vol.2」(7)

2023年2月10日 採録「プレゼンテーション+ディスカッション」『映画祭の時代』：① フランス・リュサス国際ドキュメンタリー映画祭

2023年3月6日 採録「プレゼンテーション+ディスカッション」『映画祭の時代』：②高崎映画祭

2023年3月23日 採録「プレゼンテーション+ディスカッション」『映画祭の時代』：③ひろしまアニメーションシーズン

2023年3月23日 採録「プレゼンテーション+ディスカッション」『映画祭の時代』：④〈映画の力〉プロジェクト

(3) コミュニティシネマセンター会員制度の充実、見直しなど

会員の増加をはかるとともに、新しい会員制度を検討した。

ウェブサイトのリニューアル、会員制度の充実、見直しなど

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行った。

ミニシアター・ネットワーク会員相互割引サービスの実施

コミュニティシネマセンター各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施。

[2]「こども（若年層）と映画」プログラム

(1)「夏休みの映画館2022」の開催

(文化庁R3年度補正予算「Arts for the Future! 2」)

地域に暮らす子どもたち（小学生～高校生）に、地域の映画館を訪れてもらうための取り組みとして、夏休み期間中の1週間、毎日1本（プログラム）子どもたちに見せたい、多様で魅力的な映画を選定、上映した。ライブ感あふれるサイレント映画の活弁・演奏付上映や、魅力的なゲストによるトーク、体験型のワークショップなども合わせて実施した。また、上映する2作品の鑑賞ノートを作成した。

*受託事業[1](3)ミニシアター・コミュニティシネマ連携企画の推進参照

日程：2022年7月30日〔土〕～8月5日〔金〕 ※金曜日～木曜日の館も有

対象：小学生～高校生（観客としては大人も可。各館ごとに検討）

料金：500円均一（高校生以下）

会場：横浜シネマ・ジャック&ベティ、シネマテークたかさき、シネ・ヌーヴォ（大阪）、元町映画館（神戸）、DENKIKAN（熊本）、ガーデンズシネマ（鹿児島）、松本シネマセレクト 7会場

参加者数合計 1013人

上映作品

①サイレント映画をライブ（活弁・演奏付）で上映。

劇場ごとに異なるプログラムで、活弁・演奏付のライブ上映会を開催。

②『セロ弾きのゴーシュ』63分/1982年/監督：高畑勲/日本

劇場ごとに上映に合わせてチェロのミニコンサートなどを企画。

③『ロシュフォールの恋人たち』127分/1967年/監督：ジャック・ドゥミ/フランス

上映後にフランスの教育プログラム担当者B.ポーヴィーさんによる解説映像を上映。

④『ちむぐりさ 菜の花の沖縄日記』106分/2019年/監督：平良いずみ/日本 /ドキュメンタリー

トークゲスト：平良いずみ監督、西原孝至監督

⑤『タレントタイムーやさしい歌』115分/2009年/監督：ヤスミン・アフマド/マレーシア

トークゲスト：杉野希妃（俳優・監督・プロデューサー）・土田環

⑥『キャロル』118分/2016年/監督：トッド・ヘインズ/アメリカ PG12

坂本安美（アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム主任）セレクション。ミニレクチャーも。

⑦『夜明け告げるルーのうた』107分/2017年/監督：湯浅政明

関西でミニシアターを応援する学生グループ「映画チア部」によるトークイベント（小原篤氏）。

(2)「こども映画館」の開催

子ども（中高生を含む）を対象とした上映会は、全国7カ所で計12回実施した。各地の上映者とともに企画・運営を行い、上映会には合計で1414人に参加してもらうことができた。

－「こども映画館～スクリーンでみる日本アニメーション！」 国立映画アーカイブ共催事業

2022年6月26日 | 高知県民文化ホール | 『パンダコパンダ雨ふりサーカス』607人（2回上映）

2022年8月1日 | 窪川四十会館(高知) | 『パンダコパンダ』66人（2回上映）

2022年8月11日、12日 | 川崎市アートセンター | 『セロ弾きのゴーシュ』60人（2回上映）

2022年8月27日 | 西宮市立大社小学校(兵庫) | 『パンダコパンダ雨ふりサーカス』150人（1回上映）

2022年12月6日 | 松山市総合福祉センター(愛媛) | 『パンダコパンダ』85人（1回上映）

以上計 968人

—こどもと映画プログラム（こども映画館）

2022年7月30日、31日 | Denkikan(熊本)

7/30 『キートンの探偵学入門』、『日の丸太郎』活弁付上映 活弁：山内菜々子

7/31 『セロ弾きのゴーシュ』+朗読ワークショップ 講師：政木ゆか

計40人

広島市映像文化ライブラリー「土曜日の映画館」

2022年4月16日 『はちどり』トーク（録画）：キム・ボラ監督ほか 69人

2022年7月16日 『フロリダ・プロジェクト 真夏の魔法』トーク（録画）： 43人

2023年1月21日『キャロル』レクチャー：坂本安美（アンスティチュ・フランセ日本）114人
2023年2月4日『タレントタイム』トーク（録画）：杉野希妃 54人
2023年3月4日『ロシュフォールの恋人たち』トーク（録画）126人
広島市映像文化ライブラリー計406人

(3) ウェブサイト「夏休みの映画館」「こども映画館」の作成・更新

[3] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) 映画/批評月間《フランス映画の現在》vol.4 の巡回

アンスティチュ・フランセが、フランスの映画メディア（新聞、雑誌、テレビ局、ウェブ媒体等）、批評家、専門家、プログラマーと協力し、最新のフランス映画 を選りすぐり紹介する特集「映画/批評月間～フランス映画の現在をめぐって～」。vol.4では、フランスの人気カルチャー・マガジン雑誌「レザンロキ ュプティール」の編集長ジャン＝マルク・ラランヌ氏がセレクションを担当、2020年以降の製作作品から最も刺激的なフランス映画を上映。また、合わせて女優デルフィーヌ・セイリグの特集を行った。コミュニティシネマセンターでは、2022年10月の東京での上映後、上映された作品の中から12作品を全国4館に巡回した。横浜シネマ・ジャック&ベティでの上映はコミュニティシネマセンター共催で実施した。

巡回：

出町座（京都） 2022年10月14日～11月1日 12作品上映

シネ・ヌーヴォ（大阪） 2022年10月15日～11月2日 12作品上映

横浜シネマ・ジャック&ベティ 2022年11月26日～12月9日 12作品上映

広島市映像文化ライブラリー 2023年1月20日～2月5日 10作品上映

観客数合計：2228人

巡回作品

『マンディビュル』カンタン：デュプー（2020/77）

『恋するアナイス』シャルリーヌ・ブルジョワ＝タケ（2021/98）

『フランス』ブリュノ・デュモン（2021/134）

『そんなの気にしない』エマニュエル・マール&ジュリー・ルクストル（2022/115）

『愛と激しさをもって』クレール・ドゥニ（2022/116）

『ドン・ジュアン』セルジュ・ボゾン（2022/100）

デルフィーヌ・セイリグ特集

『去年マリエンバードで』アラン・レネ（1961）

『ミリュエル』アラン・レネ（1962）

『インディア・ソング』マルグリット・デュラス（1975）

『デルフィーヌとキャロル』カリスト・マクナルティー（2019）

『《ジャンヌ・ディエルマン》をめぐって』監督：サミー・フレ（1975）

(2) ジョージア映画祭2022

ジョージア映画の歴史的傑作の数々を一堂に集め、デジタルリマスター版で一挙上映する「ジョージア [グルジア] 映画祭2022」。コミュニティシネマセンターで全国8会場に巡回した。

主催：ジョージア映画祭2022実行委員会 企画：はらだたけひで

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター

京都みなみ会館 2022年4月15日～5月6日 23作品上映

横浜シネマリン 2022年5月7日～27日 22作品上映

シネ・ヌーヴォ（大阪） 2022年5月28日～6月24日 26作品上映

広島市映像文化ライブラリー 2022年6月22日～7月10日 22作品上映

名古屋シネマテーク 2022年9月10日～23日 14プログラム上映

シネマ5（大分） 2022年11月26日～12月9日 7プログラム上映

真庭映画祭(岡山) 2022年11月18日~20日 2作品上映

川崎市アートセンター 2022年12月24日~28日 6プログラム上映

観客数合計:5176人

巡回作品

【Aプログラム】 シェンゲラヤ家の栄光

『エリソ』(ニコロズ・シェンゲラヤ監督/1928/80分)

『アラヴェルディの祭』(ギオルギ・シェンゲラヤ監督/1962/52分)

『白いキャラバン』(シェンゲラヤ+メリアヴァ共同監督/1963/97分)

『青い山一本当らしくない本当の話』(エルダル・シェンゲラヤ監督/1983/97分)

【Bプログラム】 画家ニコ・ピロスマニ特集

『ピロスマニのアラベスク』(セルゲイ・パラジャーノフ監督/1985/23分)

『ピロスマニ』(ギオルギ・シェンゲラヤ監督/1969/88分)

『ピロスマニ・ドキュメンタリー』(ギオルギ・シェンゲラヤ監督/1990/49分)

【Cプログラム】 よみがえった歴史的名作

『ハバルダ』(ミヘイル・チアウレリ監督/1931/61分)

『失樂園』(ダヴィト・ロンデリ監督/1937/83分)

『マグダナのロバ』(チヘイゼ+アブラゼ共同監督/1955/71分)

『ナイロンのクリスマスツリー』(レゾ・エサゼ監督/1985/77分)

【Dプログラム】 ミヘイル・コバヒゼ監督特集

『結婚式』(ミヘイル・コバヒゼ監督/1964/21分)

『傘』(ミヘイル・コバヒゼ監督/1967/21分)

『音楽家たち』(ミヘイル・コバヒゼ監督/1969/14分)

『井戸』(エルダル・シェンゲラヤ監督/2020/21分)

【Eプログラム】 テンギズ・アブラゼ監督『祈り 三部作』※配給ザジフィルム

『祈り』(テンギズ・アブラゼ監督/1967/78分)

『希望の樹』(テンギズ・アブラゼ監督/1976/107分)

『懺悔』(テンギズ・アブラゼ監督/1984/153分)

【Fプログラム】 第1回ジョージア映画祭アンコール

『私のお祖母さん』(コンスタンティネ・ミカベリゼ監督/1929/67分/サイレント)

『スヴァネティの塩』(ミヘイル・カラトジシュヴィリ監督/1930/44分/サイレント)

『大なる緑の谷』(メラブ・ココチャシュヴィリ監督/1967/85分)

『少女デドゥナ』(ダヴィト・ジャネリゼ監督/1985/64分)

【Hプログラム】 国民的映画『ケトとコテ』を極める

『ケトとコテ』(タブリアシュヴィリ+ゲデヴァニシュヴィリ共同監督/1948/90分)

『喜びの家』(メラブ・ココチャシュヴィリ監督/2008/64分)

『「ケトとコテ」を求めて』(ダヴィト・グジャビゼ監督/2009/66分)

【Iプログラム】 ゴゴベリゼ家・女性監督の系譜

『ブバ』(ヌツァ・ゴゴベリゼ監督/1930/39分/サイレント・サウンド版)

『ウジュムリ』(ヌツァ・ゴゴベリゼ監督/1934/56分/サイレント・サウンド版)

『インタビュアー』(ラナ・ゴゴベリゼ監督/1977/95分)

『幸福』(サロメ・アレクシ監督/2009/30分)

(3) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。

フレデリック・ワイズマン監督作品、英国ドキュメンタリー傑作選、その他、当センターが保有する作品の貸出を行った。